

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/8/27作成 (株)新出光

【概況】<米株の上昇とワクチン正式承認による接種加速期待で上昇>

●20日、デルタ株まん延による景気減速への警戒感から、原油は下落しました。新規感染者は米国でも急増しており、アジア地域を中心にロックダウンや行動規制措置が強化され、燃料需要が鈍化するとの懸念が、投資家心理を圧迫しています。エネルギー消費大国である中国で、新型コロナの影響により港湾が一部閉鎖され、貨物輸送や供給網に混乱が生じていることも下押し要因となったようです。

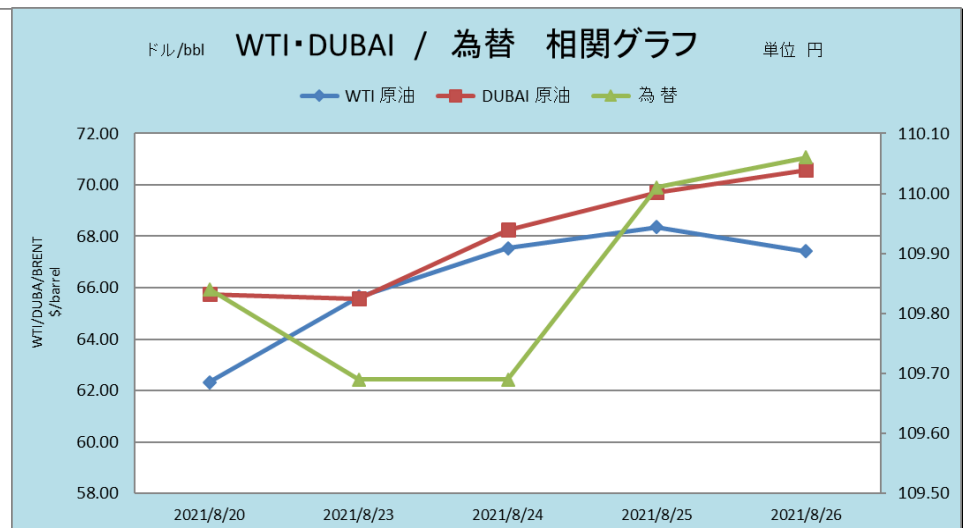
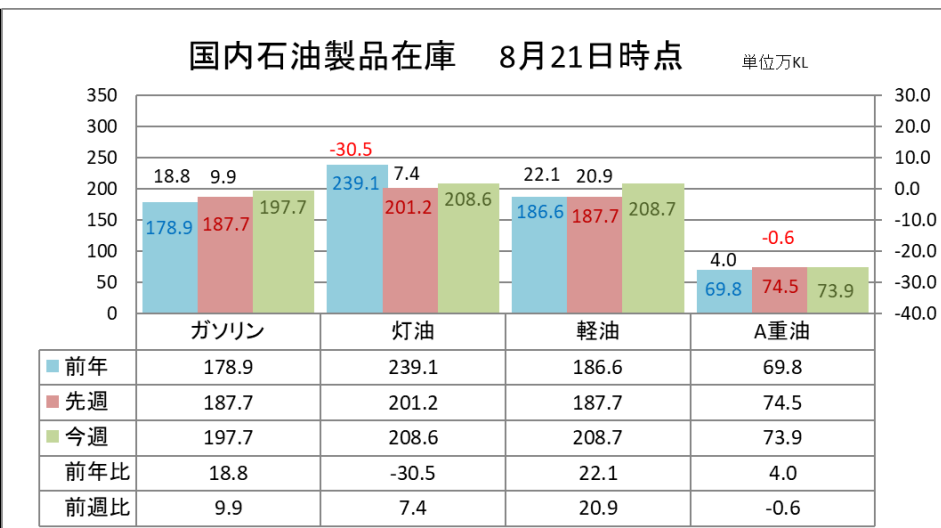
●23日、外国為替市場では、米株高などを受けて投資家のリスク選好意欲が高まり、原油相場は買いが先行しました。WTI原油で65ドル台を回復し、7営業日続落していた反動による買い戻しやポジション調整の動きなども加わり、高値圏で推移しました。

●24日、米食品医薬品局(FDA)が前日、米ファイザーと独ビオンテックが共同開発した新型コロナワクチンを正式承認したと発表しました。ワクチン接種のペースが加速し、米経済の正常化に伴ってエネルギー需要も高まるとの期待感が広まり、原油も買われました。

●25日、メキシコ湾南部沖合の石油プラットフォームで火災が発生し、日量40万バレル超の供給が停止したとの報を受け、相場は上昇しました。EIAが発表した在庫統計では、原油が300万バレル減少し、市場予想通り3週連続の取り崩しとなり、ガソリン在庫も160万バレル減の予想に対して220万バレル減少しました。それを受け原油相場はWTI原油で68ドル台まで上昇しました。

●26日、引き続き感染拡大が続く中、エネルギー需要の先行き不透明感から原油売りが先行しましたが、最近の上昇基調の反動から利益確定の売りも出やすい地合いとなっていました。またメキシコ湾南部沖合の同国国営石油会社ペメックスの石油プラットフォームで22日に発生した火災事故に伴い125カ所の油井が稼働停止となり、日量40万超バレルの生産に影響していましたが、一部操業を開始したとの報道により供給懸念緩和による原油の売りも台頭しています。

8月27日 17:00現在 WTI原油 68.56ドル 為替 1ドル 110.10円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】<月間玉から週間玉へシフト>
	9/2~	元売変動予測	
ガソリン	➡	+2.5~+3.0	<p>《今週》今週の元売り仕切り改定は3社ともに「-2.0円」の値下げ改定でした。相場を牽引していた月間リンク玉の販売も徐々に終わり始め、改定を機に価格競争力を失ったことで相場から離脱する動きが見受けられました。市況も先行して下がっていたため、改定後の下げ幅も限定されました。また月間玉の販売終了の反面、代わりにこれまで販売が遅れていた週間玉の販売が台頭しています。</p> <p>《8月28日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「+2.5~+3.0円」の値上げ予測です。エリアによって既に枠を消化したディーラーが多いところや、枠の消化が遅れ販売が激化しているところなど各地温度差が出てきています。先週下がっていた原油相場が急上昇し、次回の9月2日以降の改定が、大幅値上げになることや月末のリセット値上げになることを見越し、買い手は月内での仕入れを積極的に進めることが考えられます。少し高くても引き取りがあるなど、販売枠の消化に目途がついたディーラーは多く普段オーダーのない先からの問い合わせも多くあったようです。週明けは月内販売の最終日ですので、枠が終了した油種の市況は値上げが進むものと考えられます。</p>
灯油	➡	+2.5~+3.0	
軽油	➡	+2.5~+3.0	
A重油	➡	+2.5~+3.0	
LSA	➡	+2.5~+3.0	

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<都市ごみから燃料製造技術開発>

伊藤忠商事は23日に、都市ごみから水素や再生燃料を製造する技術を開発する米ベンチャー企業のRavenSRに出資したと発表しました。RavenSRは電気を使って都市ごみを燃焼することなしにガス化して、水素と一酸化炭素の合成ガスを製造する技術を独自に開発し、この合成ガスから水素や燃料の製造を目指しています。まずは自動車向けの燃料として製造を確立し、今後航空輸送や陸上輸送の分野の燃料製造へと展開していくことを想定しています。伊藤忠商事はまずグアムやサイパンで水素の製造販売を検討していくようです。ゴミとして廃棄されるものを活用した燃料製造は様々行われており、丸紅と日本航空などは廃プラスチックを原料とする航空代替燃料の製造販売について、米企業のフルケラムの技術を用いて製造し商用化することを目指しています。廃棄されるゴミを活用した燃料製造は焼却時の燃料消費を減らし、環境への負荷を軽減できるとして注目が集まっています。

[出典]

- ① <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC2336O0T20C21A8000000/>
- ② <https://newswitch.jp/p/28496>
- ③ <https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1693136.html>